

### 本部（東京）

〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2  
TEL 03(5540)7446 FAX 03(5565)1643

### 大阪事務所

〒530-8211 大阪市北区中之島 2-3-18  
TEL 06(6201)8008 FAX 06(6231)3004

### 西部事務所

〒803-8586 北九州市小倉北区室町 1-1-1  
TEL 093(563)1284 FAX 093(563)1287

### 名古屋事務所

〒460-8488 名古屋市中区栄 1-3-3  
TEL 052(221)0307 FAX 052(221)5453



朝日新聞厚生文化事業団ホームページ

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

[mail@asahi-welfare.or.jp](mailto:mail@asahi-welfare.or.jp)

## 「朝日の社会福祉 2016 年度の主な活動」

2016年11月発行

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

# 共に生きる 豊かな福祉社会のために

朝日の社会福祉

朝日新聞厚生文化事業団は  
「子ども」「障害のある人」「高齢者」を  
3本の柱として  
社会福祉事業に取り組んでいます。



THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

社会福祉法人  
 朝日新聞厚生文化事業団

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>



## 高校生進学応援金

児童養護施設や里親家庭から大学や専門学校への進学を目指す高校生に応援金を贈呈しています。今までは入学金相当額のみでしたが16年度から拡充し、入学金(実費)に加え、学費として年に60万円(最大4年間で240万円)を贈ります。

## 朝日夏季保育大学

保育士などの教養と技術の向上を目指し、1954年から長野県諏訪市で毎年催しています。16年は、白梅学園大学の師岡章教授の講演や新沢としひこさんによるステージなどの他、初めての試みとしてグループワークも行いました。



## 親子で楽しむ クリスマスコンサート

あそびうたや踊りで、子どもも大人も楽しめる愉快的なステージをお届けします。16年も「世界中の子どもたちが」の作曲で知られる中川ひろたかさんがステージを務めます。



## 子どもの福祉

### 朝日こどもの貧困助成

日本のこどものおよそ6人に1人が貧困と言われています。こどもたちが環境や状況に影響されることなく、教育を受け、社会に受容され、自立して生きていけるように、斬新な視点や発想でこどもの貧困問題に取り組む事業を公募し、総額1,000万円の助成を行いました。



### こども応援金

東日本大震災で両親を亡くした子どもに、使い道を問わない応援金(150万円~300万円)を直接、渡しています。これまでに総額4億8,850万円を贈りました。



障害のある人の福祉

### 全国高校生の手話による スピーチコンテスト

熊本地震で体験した恐怖や不安を、手話とスピーチで紹介した熊本県立阿蘇中央高校2年の井麻優香(いまゆか)さんが1位に選ばれました。



### 自閉症カンファレンス NIPPON

日本全国から約1,000人の参加者が集まる国内最大級の自閉症支援のための会議を、東京・早稲田大学で開きました。



### 聖明・朝日盲大学生奨学金

聖明福祉協会と事業団が主催している視覚障害のある大学生のための奨学金です。16年は、大学で情報処理技術を学び会計管理職に就くことが夢という筑波技術大学の杉崎信清さんに決まりました。



### 朝日九州車いす バスケットボール 選手権大会

車いすに乗って行うバスケットボールの九州大会を、九州車椅子バスケットボール連盟と共に主催しています。



### 講演会「高次脳機能障害を生きる」

交通事故や病気で受傷し高次脳機能障害となった当事者や家族が、障害とどのように向き合えばよいのかを考える講演会を東京と大阪で開き、当事者も招いて話しあいました。

### うつ病の講演会

精神科医の大野裕さんらを招き、うつ病に苦しむ本人や近くで見守る家族を理解し、どう支えるかを考える講演会を福岡で開きました。





## 高齢者の福祉

### 認知症カフェ

認知症の人やその家族などが気軽に集まり語りあえる「認知症カフェあまなつ」を14年に静岡県南伊豆町に開設しました。認知症カフェの開設講座も札幌、仙台、広島で開催しました。



### 認知症カフェ開設助成金

16年度の新たな試みとして、認知症カフェを新たに立ち上げる団体に対し総額2,000万円、1カ所に最大100万円を出す助成を始めました。



### 講演会「認知症になっても安心して暮らせる社会をめざして」

「ドラえもん」の声で知られる大山のぶ代さんが認知症になりました。その夫で俳優の砂川啓介さんが、大山さんの介護体験について東京と大阪で語りました。



### 講演会「認知症になっても暮らしやすい町づくり」

認知症を地域ぐるみでサポートする仕組みを作っている英国から専門家を招き、日本国内の課題を探るシンポジウムを大阪と東京で17年2月に開催します。

### 講演会「認知症の人の支援と地域包括ケア」

認知症の人が地域で暮らし続けていくために必要な保健予防や介護、生活支援などについて学ぶ講演会を大阪で開催しました。



### ゆうゆうビジット

全国の高齢者施設を訪問し、コンサートやお相撲さんによる技の披露とちゃんこ鍋など、憩いのひとときを届けます。





# 震災・災害救援事業



## 朝日のあたる家

東日本大震災の被災地の岩手県陸前高田市に、コミュニティーハウス「朝日のあたる家」を2013年に建てました。各種講演会やコンサート、認知症カフェなどが開かれる地域活動の拠点となっています。



## グリーフサポート

米国ハワイ州のキッズ・ハート・ツアー・ハワイの指導の下で、震災で大切な人をなくした子どもたちに寄り添うグリーフ(悲嘆)ワークを、岩手県・陸前高田市と宮城県・東松島市で行いました。14年から2年にわたり行ったグリーフサポートトレーナー研修も16年6月に終了しました。



## 被災地ビジット

東日本大震災の被災地の方々に、コンサートや歌やマジックなど、安らぎのひと時を届ける事業です。訪れた学校や老人ホーム、保育所などが笑いと歓声に包まれます。



## 震災・災害救援事業

朝日新聞厚生文化事業団は、関東大震災の被災者救援をきっかけとして設立された団体です。災害復興支援は、いまま事業の大きな柱となっています。



## 熊本地震

4月に起きた熊本地震の被災者のため、朝日新聞社と事業団が受け付けた救援金は、朝日新聞社からの500万円を含めて計2億1,537万3,338円に上りました。この全額を日本赤十字社本社に送りました。





## 多彩なチャリティー事業

### 朝日チャリティー美術展

文化勲章受章者や人間国宝を含む全国の芸術家や著名人から寄贈された作品を販売し、収益を社会福祉事業に充てるチャリティー美術展を東京、大阪、名古屋で開催します。若手作家の創作活動を支援する「Next Art展」も東京の松屋銀座で開きます。



### メサイア演奏会

毎年12月にヘンデルの「メサイア」を芸大フィルハーモニアが演奏、同大音楽学部声楽科学生と大学院生らが独唱・合唱します。戦災で家族を失った子どもたちなどの支援を目的に1951年に始まったコンサートも、今年で66回を迎えます。



### 洋舞合同祭

モダンダンスとクラシックバレエの祭典「洋舞合同祭」を大阪で開催します。児童や大人のチームなど総勢約600人の出演者が日頃の成果を披露し、華やかなステージで繰り広げます。



### 協賛能

観世流や宝生流など能の五流や狂言の大蔵流、和泉流など関西で活躍する能楽師や狂言師が一堂に集まる「歳末助け合い協賛能」を大阪で、能楽協会大阪支部との主催で12月に開催します。



### 各派合同三曲演奏会

琴、三絃、尺八の各派社中による優美で華やかな和の音色に染まる合同演奏会を大阪市内で開催します。



### 茶会

各流派のお茶席が気軽に体験できるチャリティー茶会や、関西の大学の茶道部による学生チャリティー茶会などを大阪、名古屋、北九州で開きます。



# 多彩なチャリティー事業



# 福祉啓発や各種講座

## 遺贈・遺言セミナー

老いに備えるセミナーを、弁護士の中山二基子(ふきこ)さんを講師に招き、東京、大阪で開催しました。東京では個別相談会も初めて実施しました。



## 自殺防止公開講座

自殺予防の専門家を招き、自殺を巡る報道の役割やその影響についての講演会を福岡で開き、自殺予防につなげる糸口を探ります。



## アサヒベビー相談室

育児に悩む親のため、医師や歯科医師、栄養士といった専門家による病気や発育、栄養などに関する相談を行っています。1957年に全国で初めて大阪のデパート内に無料相談室を開設しました。年間約1,500人が訪れています。



## 〈朝日福祉ガイドブック〉



### 『なるほど高次脳機能障害』

(1,296円)

「見えない障害」と言われる高次脳機能障害の診断、退院、リハビリ、社会参加などを網羅し、多数の事例を交えて解説。

### 『認知症とともに』

(1,080円)

認知症の人や、その家族のために、診断から治療・ケア・介護サービス、施設への入所や看取りまでをイラスト入りで分かりやすく解説。

### 『みんなのうつ』

(1,080円)

うつ病の「分かりにくさ」を整理した入門書。大野裕さん監修。自分や家族、周りの人が「うつ病かな」と思った時に開いてください。

### 『生き方、逝き方ガイドブック』

(1,296円)

どうすれば本人らしい「逝き方」ができるのか。タブー視されがちなこの命題を新田國夫医師とともに整理しました。

### 『自閉症のひとたちへの援助システム』

(540円)

TEACCHプログラムの実践例を紹介し、日本でいかに生かすかを提案。

### 『自閉症の人たちを支援するということ』

(864円)

TEACCHプログラムの最高責任者、米ノースカロライナ大のメジボフ教授が自閉症とプログラムの内容を分かりやすく解説。

### 『100% あたたくん』

(648円)

自閉症のあたたくんが大活躍の4コママンガ。自閉症の理解に役立ちます。

【梱包送料】1冊180円、2~3冊250円、4~5冊300円  
(6冊以上はお問い合わせください)



# 朝日福祉ガイドブック・DVD



〈朝日福祉ガイド DVD〉



『自閉症の人が求める支援』

全3巻セット価格 10,692円／各巻 4,320円

自閉症の人が自閉症のまま、学び、発達し、健康に幸福に生きていくための、それぞれの個性に合わせた支援のあり方を映像化。第1巻「基本編基礎からわかる構造化」(60分)・第2巻「実技編構造化と再構造化のしかた」(85分)・第3巻「実技編自立のための構造化」(112分)。

『自閉症の子どもの評価 生活スキル編』

全4巻セット価格 18,144円／各巻 4,860円

自閉症の人を正しく支援する上で、すべての基礎となる評価を詳しく、具体的に、わかりやすく映像化しました。第1巻「評価の仕方」(65分)・第2巻「評価のポイント」(48分)・第3巻「評価と課題設定」(86分)・第4巻「自立のための評価」(71分)。

『自閉症の人が見ている世界～自閉症の人を正しく理解する』

全3巻セット価格 10,692円／各巻 4,320円

自閉症の人の考え方や感じ方の「違い」について、自閉症の人自身が語る言葉と映像は、自閉症を正しく理解する原点。第1巻「自閉症の人の学習スタイル」(63分)、第2巻「自閉症の人が好むこと」(39分+全3巻のダイジェスト21分)、第3巻「13人のエピソード」(85分)。

自閉症児の治療教育シリーズ

(米国ノースカロライナ州の TEACCH プログラム) 各巻 3,024円

『自閉症児の明日のために TEACCHのねらいと考え方』(49分)、『親のためのTEACCHプログラム』(67分)、『教師のためのTEACCHプログラム』(69分)、『青年期・成人期のTEACCHプログラム』(55分)。

『自閉症の子どもの自立課題』

全3巻セット価格 13,608円／各巻 4,860円

「自分ができるんだ」という感覚を養い、いろいろなことに取り組もうという意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しくやさしく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64分)・第2巻「自立課題の作り方」(59分)・第3巻「自立課題のできあがり」(49分)。

ご希望の方は電話かファクス、電子メールで下記までお申し込みください。  
(タイトル名、数量、送り先、電話番号を明記)

【梱包送料】7巻まで510円(8巻以上は800円)

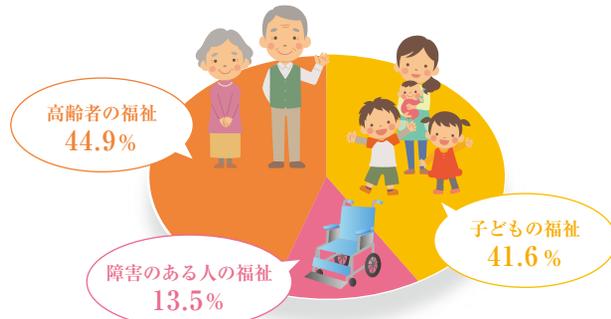
朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD係

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2  
tel: 03-5540-7446 fax: 03-5565-1643  
e-mail: guide@asahi-welfare.or.jp

ホームページ(<http://www.asahi-welfare.or.jp/>)からもお申し込みができます。

皆様の中からのご寄付は  
以下のような事業に使われます。

(2016年度事業活動予算、東日本大震災救援事業を含みます)



その他 公益事業としてガイドブックやDVDの発行  
福祉啓発事業なども行っています。

事業総額  
2億3,209万円

朝日新聞厚生文化事業団の社会福祉事業は皆様からのご寄付で実施されています。  
寄付者名・団体名は朝日新聞の地域面に掲載します(千円以上、匿名扱いもできます)。

ご寄付やお問い合わせ

- 郵便振替 「寄付専用」郵便振替用紙をお使い下さい。お手元がない場合は、当事業団が払込料金を負担する振替用紙をご請求ください。または、口座番号「00130・1・9166」(加入者名=朝日新聞厚生文化事業団、通信欄に「寄付」、領収書不要の場合もそのように明記)までご送金下さい。
- 銀行振り込みやクレジットカードによるご寄付もできるようになりました。事業団ホームページからご寄付の手続きができます。
- 現金受付  
朝日新聞本社内の厚生文化事業団窓口  
(平日午前10時～午後5時30分)や朝日新聞の各総局など  
※寄付金控除 当事業団へのご寄付は個人の場合、所得控除と税額控除の二つの寄付金控除のいずれか有利な方をお選びいただけます。この優遇を受ける場合、確定申告をしていただく必要があります。相続税が非課税となる遺贈・遺言のご相談も含め事業団へお問い合わせください。
- 事業団ホームページから事業報告書をダウンロードできます。より詳しい事業内容をお知りになりたい方は、そちらをご覧くださいか、当事業団までご請求ください。